

ることを踏まえ、新入社員教育では赤川河口のごみ拾いを行っている。自分たちの社会貢献活動が少しずつでも広がっていくことの実感を大事に考え今後も清掃活動を続けていきたい。

- 河川美化活動者には海ごみのことまで思いは至らないのが実態。そこに交流・ネットワーク化の必要性がある。最上川河口での協働活動を行いたい。
- ごみ減量は進んでいない。シンガポールのような法的規制に頼らざるを得ないのか。海ごみの多くを占める川ごみに関しどう発生抑制と回収を行うかが重要。教育研究機関として、流木のバイオチップ化などリサイクル研究を行っている。
- JC 活動として地域単位に一齐清掃活動を実施している。今後プラットフォームに様々な形で関係しながら協力していきたい。
- 美化ボランティアによる清掃には限界がある。農林漁業者は生計上の事由でやむを得ずプラスチック製品を使用したり処分・廃棄している。それが現実であることもしっかり見据えないと取り組みが上滑りになる。
- 地元で山と海の繋がりを考える「魚の森づくり」を行っている。海を含めた漁村への理解を深めていただく上でもプラットフォームの活動にはぜひ参加したい。

クリーンアップ・ザ・庄内海岸

- 美しいやまがたの海を未来の子供たちに伝えていくため、地域が一齐に取り組むクリーンアップ事業を実施します。
- 今年は、「美しいやまがたの海プラットフォーム」のプロジェクト事業として位置づけ、地域で取り組んでいる各実施団体と連携を図りながら「ごみ問題」を考える機会とします。
- また、漂着ごみの状況を把握するため、モニタリング調査を併せて実施し、「国際海岸クリーンアップ」にエントリーしてデータの活用を図ります。
- 皆さん、奮ってご参加ください。



〈実施日〉 10月4日(土) (荒天時は中止、小雨決行)

〈場所と時間〉

- ◎西浜海水浴場(遊佐町) : 午前7時30分~9時
- 宮海国有林(酒田市) : 午前8時30分~10時30分
- 最上川河口右岸部(酒田市) : 午前9時30分~11時30分
- ◎由良海水浴場(鶴岡市) : 午前8時30分~10時
- 羽咋-がねがせき(鶴岡市) : 午前7時~8時30分
- ◎赤川河口右岸河川敷(酒田市) : 一般参加者の募集ありません
- 湯野浜宮沢海岸(鶴岡市) : //
- ◎印 モニタリング調査実施会場

〈申し込み〉

電話またはファックス・Eメールで、庄内総合支庁環境課へ。
(TEL)0235-66-5704、(FAX)0235-66-4749、
Eメール yshonaikankyo@pref.yamagata.jp

プラットフォームの会員募集中

「美しいやまがたの海プラットフォーム」は、庄内海岸の環境改善に関心を持つ団体・個人が集い活動の輪を広げることをねらいとしています。参加資格は問いません。団体・個人どなたでもOK。会員になって海に関する様々な問題・課題(特に海岸漂着ごみ)について、まずは情報交換や意見を出し合いませんか? きっとその先に改善策が見えてくることでしょう! 加入方法に関するお問合せは、下記までご連絡ください。

【PF 協働事務局】
庄内総合支庁環境課 (TEL0235-66-4744)
E-mail : yshonaikankyo@pref.yamagata.jp
特定非営利活動法人 パートナシップ びび
(TEL0234-26-2381) E-mail : npo-po@nifty.com
東北公益文科大学 呉尚浩研究室
(TEL0234-41-1251) E-mail : ngo@koeki-u.ac.jp

編集後記

設立記念創刊号です。(祝) 何かの組織を立ち上げたときに大切なのは、そのコンセプト(意義)と継続する力を持ち続けることです。(設立は手段であって、目的ではない。)・・(M)

図 2.1-3(8) 「美しいやまがたの海プラットフォーム」資料(山形県庄内総合支庁から提供)

565名の皆様、ご協力ありがとうございました。
クリーンアップ・ザ・庄内海岸が無事終了しました！

クリーンアップ・ザ・庄内海岸の取組み

結果報告 庄内総合支庁環境課

美しい庄内海岸をとり戻そうと、10月4日を中心として、庄内海岸の5つの会場で計565名の参加者を得て、一斉清掃が行われました。

回収されたゴミは、ペットボトルやビニール袋などのプラスチック類、ビン類や缶類、釣り具など、あわせて3,550kgにも上っています。

一方、参加者は雨天により2会場が中止となった分、昨年度を下回りましたが、事前の申込段階では昨年度実績を上回るなど、環境意識の高まりを感じさせるものがありました。

会場（実施日）	参加者	回収量
(1)遊佐町吹浦海岸(10/4)	91名	360kg
(2)酒田市宮海(10/4)	103名	1,460kg
(3)最上川河口右岸部(雨天中止)	-	-
(4)赤川河口右岸(10/25)	58名	270kg
(5)湯野浜宮沢海岸(雨天中止)	-	-
(6)由良海岸(10/4)	244名	980kg
(7)リッパ・クねずがせき(10/4)	69名	480kg
計	565名	3,550kg

※雨天中止会場：最上川河口右岸部（申込者数 178名）
湯野浜宮沢海岸（ 〃 30名）

【地域連携の取組み】

今年は、7月31日に設置された「美しいやまがたの海プラットフォーム」の設立趣旨を踏まえ、活動の輪を広げようと、地区自治会や会社等への呼びかけを行い地域連携の取組みとなるよう実施しました。その結果、清掃作業の対象となる海岸が昨年の6会場から10会場へと増え、また参加者も1,259名に拡大するなど、今後の地域全体の取組みにつながる大きな足がかりが得られた

ように思います。

会場（実施日/主催）	参加者	回収量
(1)酒田市浜中海岸(9/11) イオンリテール(株) ジャスコ三川店・酒田南店	313名	2,000kg
(2)湯野浜海岸(9/28) 環境 NGO ウォーク・ネットワーク	3名	30kg
(3)酒田市大浜海岸(10/5) 機エフエム山形	378名	8,920kg
計	694名	2,030kg + 8,920kg

※機エフエム山形はゴミ回収量を概算している。

このような、地域連携の輪の広がりがさらに大きな動きとなり、地域から発信する様々な海岸ゴミ問題の解決に向けた取組みへと大きく発展していくものと期待されます。その意味で、今回参加された皆さんは、単に回収活動に終わらせることなく、清掃体験を踏まえ、まだ参加されていない他の多くの方々に、海岸ゴミの実状を是非とも伝えていって欲しいと思います。

海岸ゴミ問題は、だれかが解決してくれる問題ではありません。より多くの皆さんが当事者意識を持って関わらなければ解決しない問題です。まずは、小さな一歩から取り組んでいきましょう。

(リサイクル推進専門員 長沼 庸司)



図 2.1-3(9)「美しいやまがたの海プラットフォーム」資料（山形県庄内総合支庁から提供）

参加者の声を聞いてみました

～10月25日(土)～

【赤川河口会場】で行われた一斉清掃活動に参加された親子の声を紹介します。

①親子で参加 夫婦・女子(小4)

・今回初めて参加させていただき、感じたことは『ペットボトルの量が半端じゃない』ということです。

自分が小さい頃、海にこんなにゴミがあったのだろうか？

昔はペットボトルなどなくジュースは瓶入りで空瓶をお店に持って行けば10円と交換してもらえる、そんなシステムだったと思います。

昔のように瓶入りジュースだったらゴミはこんなにないんだろうな、むしろ昔の方がリユースされて環境にいいんじゃないかと感じました。

また、外国からの漂着ごみはそれほど多くなく、イメージとは異なる日本のごみの多さばかりです。

・『一人の百歩より百人の一步』を感じながらゴミ拾いが出来ました。

みんなで行えば時間も短時間で済みましたし、いい経験ができました。

子供に“土曜はゴミ拾い行くぞ”と言ったら嫌な顔をしていましたが、実際ゴミを拾っている顔を見ると“こんなに拾ったよ”みたいな笑顔でした。

毎年続けることで『年々減ってるね』と感じてくればいいのですが…。

②親子で参加 男親・女子(小4)

海水浴等に行った時、気にはなるものの拾わなかったゴミ。今回、改めてその多さに驚きました。

短時間での活動にもかかわらず、あれだけのゴミが出てくると言う事は、それだけ無頓着に捨てている人が居ると言う事。

捨てる人が居なくなれば拾う作業もなくなり、そのボランティアを他に振り向けることが出来る…。早くそういう社会になってほしいと願うばかりです。

一緒に参加した娘も、いろんなゴミが落ちていることにビックリしていました。

「自分は捨てないよ!」と言ってくれた一言で、今回参加した意義があったと思います。

この子達やその子孫に綺麗な地球を残す為に、ゴミはきちんと捨てましょう。

③親子で参加 男親・女子(3歳)

娘もとても楽しそうにクリーンアップを実施しておりました。「なんでこんなにいっぱいゴミが落ちてるんだ…」とか「ゴミを落とすと、風や波に運ばれてここに集まるのかなあ…」とか、3歳なりにいろいろ考えていた場面もあり、環境問題に対して、貴重な体験・教育になったと思います。

また次回も参加したいと楽しみにしている様子でした。

④親子で参加 男親・男子(5歳)

ゴミを拾っている際、子供から「誰がゴミを捨てたのか?何で捨てるのか?」と聞かれ回答に困りました。

綺麗にするという角度から考えていた自分と汚くしないという角度から捉えていた子供に少し考えさせられる場面でした。

前日から気合が入っていた息子は終盤体力のなさを露呈する形となり、自宅に戻ると来年へ、リベンジを誓っておりました。



(集めたごみを前に集合写真)

全国海ごみサミットが鳥羽市で開催されました

第 6 回目となる海ごみサミットが三重県鳥羽市を会場に 10 月 2 日から 3 日間の日程で行われました。この海ごみサミットは平成 15 年の第 1 回「離島ごみサミット・とびしま会議」以降、毎年漂着ごみに泣かされている「被害甚大」地域を主な会場に全国からボランティア団体、行政関係など

が一同に集い、海ごみ問題の解決に向けた情報の共有を図る場です。今回は沿岸地域だけでなく、河川流域から海ゴミ問題を捉えた取組など、情報交換が活発に行われました。会議の様子を以下にお伝えします。

鳥羽会議の成果を引き継いで

海ごみサミットは、海洋ごみ問題への取組み状況などの社会的な変化や開催地域の特徴を活かし討議内容を積重ねながら、テーマを設定してきました。

今回の鳥羽会議では、地域セッションとして「地域は海ごみとどう向き合ってきたか」、全体討議では「起因地～漂着地の連携協力について」をテーマに議論を深めました。

これは、とくに一昨年あたりの海洋ごみ問題に関する報道内容が、他国からの「越境ごみ」が強調されていた状況を受けて、主要な発生源となっている日本国内起因の陸域発生ごみの問題性に焦点をあてた結果です。

鳥羽市の志志島の海岸には、伊勢湾に流れ込む河川から流出した流木をはじめとする多くのごみが漂着します。とくに漁業への被害が深刻なことから、漁民の方々の被害意識や関心が高い地域です。

この場合、例えば長良川流域を抱える岐阜県の住民が、岐阜県内で発生したごみが長良川を經由して、近隣の他県の海岸を汚していることの意識を持つには、大変な想像力が必要です。

鳥羽市で行われた海洋ごみに関する会議内容が、伊勢湾一帯に報道され、人々の目や耳に届くことにより、想像力を生むきひとつのきっかけにもなります。

また、被害者意識だけでは済まない現実を直視する機会を、地域に与える機会にもなります。

NPO パートナーシップオフィス 金子 博

鳥羽会議には、岐阜県河川課長が参加され、開ロ一番の「先ずは、迷惑をかけている点については頭を下げなければ・・・」主旨の発言から、互いに当事者として連携していくべき姿勢を共有することが生まれた、と思っています。

事実を客観的に認め合い、それぞれどんな対応を出し合っていけるか。海洋ごみ問題に対する取組みの原点が、ここにあるのではないのでしょうか。

次のごみサミットでは、北太平洋の海洋環境の保全の観点から、国際協力・連携に焦点をあてていくべき時期にきていると感じています。

鳥羽市は、「国際観光文化都市」を行政施策の柱の一つに掲げています。ごみサミットを終え、海洋ごみ問題について鳥羽市が果たせる役割を見据え、どのような発信を国際社会に出していくのか、期待しているところです。

最後に、「ごみサミット・鳥羽会議」は、市長のリーダーシップの下、市の職員や市民、関係団体の主体的な動きがあって開催できた事実を、記します。



(全国から集まった多くのボランティア、行政関係者)

庄内のプラットフォームを全国へ発信

(庄内総合支庁環境課)

開催県の三重県からは、閉鎖性海域である伊勢湾の再生に向けた取組が報告されました。

再生に当たって「伊勢湾再生推進会議」をつくり、三重、愛知県だけでなく岐阜県も含めた木曾川・長良川など、河川（上流域）からの流木被害軽減：「漁民の森づくり、企業の森づくり」が紹介されました。

この推進会議では、国、県、市が横断的にさまざまな取組を行っていましたが、今後は、民間関係団体も含めた「交流会」を開催しながら、さらに力を結集していくこととしており、私たちのPFの狙いとも共通するものと思いました。

発生源対策は都市ごみだけでなく、流木被害もあり、庄内でも（鶴岡の）油戸住民会が行っている海・川をつなぐ取組（「魚の森づくり」）をPFでも支援していかなければと思いました。

開催地鳥羽市からは、漁業者による一斉清掃活動が報告されました。

漁業者自身も、当初は被害者意識だけだったものが、自分たちの漁具ごみなどの回収活動を行うにつれ、当事者意識が高まっていった経緯が報告されました。

このことから、この漂着ごみ問題は当事者意識を持つこと、そのためには清掃体験などの取組が大事であること。

そして、少しずつ意識を高めた市民・関係者を協働の輪の中へ引き込みながら活動の展開を広げていくこと（鹿児島大の藤枝先生のプラットフォーム実践論）が重要との認識を新たにしました。

会議では韓国で活動している環境団体から、河川の流域管理による海洋流入ごみ対策の事例も報告されました。

そこでは、大都市ソウルをはじめ河川流域となる複数の自治体と国（環境、海洋部署）が「流域特に河川に關係する団体「美しい山形・最上 海洋流入ごみの責任管理に関する覚書」を結び、費用分担方法や流入ごみ低減、効率的な管理のための政策開発を行っているものでした。

取組に関する報告の最後に、庄内地域のPFに関する報告を行ってきました。

漂着ごみ問題の解決には、行政の果たすべき役割は当然大きいものがありますが、海洋基本法（計画）や国土形成計画法などにも触れられているように、国民、企業・事業者などセクターごとに果たすべき役割が求められています。

国の取組もやっと始まった段階であり、これからが真に実効性ある法制度の整備と財政措置・支援が実現なるかの瀬戸際です。

会場からも、「ごみ問題は中央からは発展＝広がりには期待されない」「関係者の輪を広げ、地道な継続的取組を地方から実践し続け国・国民を動かしていくことが重要である」との発言がなされ、私達プラットフォームの果たすべき役割の大きさを認識しました。

このほか、会場からは、漂着ごみ問題へのアプローチとして、海洋工学に加え、生物学や郷土史など地域を総体的に捉え、そこに住む人と人とのつながりや生活文化を踏まえながらさまざまな取り組みや実践活動を行っていく必要性も指摘されました。

我が庄内には、公益の森クロマツ林の保全など多くの環境保全活動が古くから行われております。

また、公益大、山大農学部、鶴岡工専などの教育研究機関では、地域課題に対するさまざまな専門的アプローチが行われてきております。

プラットフォームでは地域における多くの方々の知見・ノウハウや行動力を結集し多角的なアプローチによる課題解決を行っていければと思います。（環境企画専門員 佐藤正広）



(全体討議の様子)